

平成25年度 第4回松柏講座！

一人語りの会～いのちと心をつなぐコンサート～

11月14日（木）6・7限目に小講堂において「第4回松柏講座」を実施しました。

俳優として舞台を中心に活躍されている三咲順子さんが、俳優のお仕事とともに音大出身の技能と経験を生かして取り組んでおられる「一人語りの会」を行いました。

「いつもレモンを買う女」と「白いジャンパー」の2つの作品を中心に、ピアノ演奏や演技、歌によるコンサートでした。

約240名の2年生と約20名の保護者や地域の方々鑑賞し、心の温まるひとときを過ごすことができました。



「67回生 第2学年 学年通信「Milestone」第21号より

生徒の感想（女子）

この講演が終わって、聞く前よりも何だかやさしい、さわやかな気持ちになったような気がします。お母さんの優しいぬくもりのような…。何かにつままれた不思議な時間でした。今までいろいろ悩んでたけど、そんなことどうでもいいなといいますが、何とかかなりそうな、そんな元気が出ました。人とのつながりの大切さも改めて感じることができました。

生徒の感想より（男子）

全て心にしみるものだったんですが、白いジャンパーが一番グッときました。一人だったら完全に泣いてるパターンでした。親子の愛を改めて実感した作品でした。自分が息子の立場だったらどうするだろうと思いつつ見ていると、何だかお母さんに感謝を伝えないと～と思いました。

生徒の感想より（女子）

「一人語り」という舞台の形があることを初めて知りました。朗読というより、本当に舞台やミュージカルを見ているようでした。演技と演奏を同時にこなしているのがすごかったです。作中のどの曲も物語の雰囲気にあっていてすごく良かったです。詩では、私がふるさとを知り、ふるさと感じるのはいつだろうかと思い、考えさせられました。また、最後の歌の「あれから」を聞いて、過去と自分の間にできる距離は、人それぞれ違うんだなと思いました。

生徒の感想より（女子）

こんな素敵な講演を高校生活の中で観るという経験ができてすごく幸せだと感じました。ピアノからあふれる人物の感情や場面の情景、そして物語そのものから伝わる生身の人間がもつ心のあたたかさ、生活にある会話のぬくもり、母、子の通じ合う気持ちの力強さがこの今回の講演からはたくさんメッセージとして受け取ることができたと思いました。本当に素敵な時間をありがとうございました。

生徒の感想より（男子）

聴きながら心が温くなる話で、とても心地よくなった。たまにはこういう「心」をじっくり思うことも大切だと感じた。時に人の心はひどく冷酷になるけれど、やはり人を愛することは大切だなあと心から思った。

